

## 学校法人神戸学院 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2019年度達成度評価表

		評価	理 由
中期目標	教学の主体性を尊重しつつ、安定的な経営基盤を確立し、兵庫、神戸を代表する魅力ある学校となることを目指します。		
中期計画	1 経営と教学の役割分担の明確化と理事会機能の強化	B	おおむね目標どおりである。特に「常勤監事の配置」については、職務内容や勤務日等について決定し、当初の予定よりも早く計画が完了している点は評価できる。中期行動計画の進捗管理については、2020年4月の事務組織改編にともない、自己点検・評価業務をつかさどる部署が大学組織となったため、法人の中期行動計画をどのように管理するのかも含め、再検討する必要がある。
	2 財政の健全化と安定的な経営基盤の確立	C	学生生徒納付金以外の収入源として、事業会社設立について具体的な検討を進めている点は評価できる。しかしながら、全体的には目標をやや下回る結果となっているため、次年度以降、課題・問題点を踏まえた改善策を講じて、確実に進めることが望まれる。
	3 社会の変化に機動的に対応するための法人資源の選択と集中	C	法人設置学校施設・設備充実については、目標どおり実行できており、評価できる。一方で、法人内業務の整合統合による効果的な運営については、2018年度からあまり進捗していない。2020年4月の事務組織改編を行ったことにより、本計画との乖離はないか検討する必要がある。
	4 労働環境の整備と男女共同参画の推進	C	職員人事制度の再整備については、2021年度からの人事制度導入に向けて進捗が見られたものの、全体的に目標を下回る結果となっている。育児に関する休暇制度や時間外労働の削減については、実態と乖離していないか精査するとともに、仕事と生活の両立のために職員が望む環境とは何か調査し、早急に実行することが望まれる。

評価 S:目標よりはるかに上回る、A:目標をやや上回る、B:おおむね目標どおり、C:目標をやや下回る、D:目標をかなり下回る